令和3年度　学校（自己）評価書 中等部

東海大学付属静岡翔洋高等学校・中等部

５～１は教員評価（５よい　４おおむねよい　３どちらともいえない　２やや不十分　１不十分）

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営（教頭）	年間教育目標の実践と点検・現状における課題の解決および改善に努める	・学校の特色が明確に打ち出され、一人ひとりの教員が、教育方針を理解し、熱心に教育に取り組んだ。 ・教職員は生徒募集目標達成の為に保護者・地域との連携や情報発信に努めた。 ・「夢中って無敵」のスローガンの下、積極的に学校改革に努め、周囲から高評価を得た。 ・教員間の意思の疎通・連携が十分でない部分があった。 ・生徒全員がiPad所持の年度となる中、教員全体の更なるスキルアップが必要となる。	3.8	・学園・学校の基本的な教育方針を十分に理解し、具体的な目標を持って日々の授業や生徒指導に取り組む。 ・本校の生徒の頑張りや教育の特色をHPやFBに取り上げ、広報紙の配布との二本立てで情報発信する。学年ごとで担当者を決め定期的な発信に努める。 ・S教員の休暇前日の仕事引継ぎを徹底する。学年主任がコンセンサスをとる。 ・iPad活用のための定期的な勉強会の実施。 ・学年や教科間での定常的な授業見学の実施。
学習指導（教務主任）	基礎学力の定着と授業の充実	・毎週火曜・金曜の朝の学習とそのほかの曜日での「朝の読書」により、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を始めさせることができた。また「朝の学習」においては、満点でないと放課後再試を徹底しているため、生徒の意識は向上した。 ・iPadを用いて授業の指導方法など工夫がなされるようになった。 ・年間3回の授業評価アンケートを通じて授業の見直しを行い、授業改善を図った。 ・基礎学力の向上はもとより、高校進学に対する意識が向上した。 ・家庭学習の習慣を完全に身に付かさせるまでには至らなかった。 ・学習のために図書館を積極的に利用させることができなかったが、インターネットを活用した授業が増加している。	3.5	・生徒のつまづき箇所の確認を行い、ICT環境（GoogleWorkSpace）なども利用して、学び直しの機会を定期的に与えることに努める。 ・研究授業や、相互授業参観などを通じて、授業力を上げる努力をする。 ・家庭学習課題の内容に図書館を利用しないと対応できないものを取り入れる。 ・学年主導による計画的な家庭学習課題を提示し、達成度を確認する。
クラス指導（生徒指導主任）	・遅刻・欠席・早退のないクラスづくり ・お互いが高めあえるクラスづくり	・担任はそれぞれの生徒をよく観察し、個人に対して的確な指導をすることができ、人間関係の構築に努めることができた。 ・学年主任は日頃から各クラスの特徴や担任の特徴を把握し、必要に応じてアドバイスをするなど、学年のリーダーとしての役割を果たすことができた。 ・各学年が遅刻や欠席の少ないクラスづくりに努めた結果、遅刻や欠席が限定的な事柄になった。 ・例年に比べて部活動変更者が多かったので、部活動の意義から話し合う必要を感じている。	3.5	・昨年度は、コロナの関係で実践できなかったが、福祉関係の講話やスポーツの機会を増やし、地域から歓迎させる中・高生であるように、意識付けと指導を日常的に行う。 ・担任と教科担当は、生徒の学習環境をきちんと管理するために情報交換を行い、頭髪・服装の指導も常に心がける。 ・公共の場でも常に生徒が本校の一員であることを自覚した行動ができるように指導を行う。 ・人間関係のトラブルは減少傾向にあるので、今後もゼロに近づくように教師陣が共通理解のもとで正しく改善できるよう協力していきたい。
生活指導（生徒指導主任）	あいさつ、礼儀、身だしなみ、美しい環境作りの指導の徹底	・本年度も、生徒部として「挨拶・礼儀・身だしなみ・美しい環境づくり」を合言葉に活動した結果、確実に生徒に浸透している.。特にあいさつについて見直し取り組んだ結果、成果として現れた。 ・教職員は校内の整理・整頓指導を意識して行った。いつでも、どこでも常に美しい環境を今後とも継続していくことが必要である。 ・生徒の頭髪・服装に関しては、生徒の自覚を促すと同時に全教員が視線を統一して指導できたと考える。	4.2	・地域の人々に「挨拶・礼儀・身だしなみ・美しい環境づくり」を合言葉に教育活動を実行していると認識していただけるように日常的に生徒指導をしていく。 ・登下校の自転車マナーについて、近隣からの苦情連絡も事故も減った。今後も危険箇所の指導は継続していく必要がある。 ・一方、スクールバス利用者の増加により、各停留所での送迎マナー改善に保護者の協力をいただくことが今後の課題である。 ・担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと整えることを心がけ、始業前の机の配列・挨拶・毎日の清掃活動の指導を日常的に意識して行う。 ・iPad導入に伴い、使用方法や管理をしっかりと行うことが課題である。全学年のiPad導入に向けてしっかりとした管理対策を行いたい。
進路指導（進路指導主任）	翔洋高校への具体的なイメージづくりと進路決定についての早期化	・公立中学校の生徒と一緒に翔洋高校の入試説明会に参加することができなかったが、高校が中等部生向けに独自の機会を設けてくれた。 ・実力試験を50点で採点し、公立の学調との比較がしやすくなり、高校入試へ向けての準備において効果的だった。 ・全員が参加する放課後講習を廃止し、公立受験組のみ講習を実施した。 ・毎週木曜日にオンライン課題を配信した。 ・進路について日常的に担任との面談を繰り返し、慎重に進路希望の確認を行った。	3.6	・中高一貫校としての観点から、中等部生に対してより具体的に翔洋高校やその部活動の魅力などを伝えられるよう、その方法を工夫する。 ・アクセルコースを目指す生徒への放課後講習を2学期に実施することも検討したい。 ・中学2年次に海洋学部・湘南校舎への見学などを行うと、翔洋高校への進学意義が更に理解されるのではないだろうか。
特別活動（生徒指導主任）	生徒会活動と部活動の活性化	・部活動への取組に対する評価は、生徒・保護者・教職員ともに共通して高い。 ・学年チーフを軸として、生徒間の諸問題に速やかな対応ができ、スムーズな生徒指導とともに、先生方との共有もしっかり行うことができた。 ・生徒会選挙では、今年度も適切な学校のリーダーを選出することができたが、会の運営方法については課題が残った。	4.0	・勉強と部活動の両立、部活動の前にまず勉強、と指導しているが、学習への取り組み状況は今後も課題である。特に5教科以外の教科についてはしっかり具体的な学習目標を立てる中で学習させたい。 ・実技教科についても、期末試験の実施を具体的に検討する。 ・生徒会選挙における演説や応援演説の仕方について、さらに質を上げていくとともに、投票方法を再検討した上で、タイムマネジメントも検討する。
研究・研修（研究主任）	公開授業の定期化 及び教員研修を充実させる	・本年度はコロナ禍のため保護者向け公開授業を中止した。 ・教員の授業力向上を目的に、学期末ごと授業評価アンケートを実施（生徒対象）。その授業評価アンケートの結果からベストティーチャーを決定した。 ・新任教員の研修を1年かけて実施。研究授業、振り返り、他の授業見学を通して授業力向上に務めた。 ・教員研修の実施。①授業見学（チェックシートを使って、担当者にフィードバック）②道徳教育への取り組み③学校教育にSDGsを導入。 ・コロナ禍ではあるが、学校報を月１回発刊（4月以降）することで、生徒・保護者へ校内の様子を伝えることができた。また中等部生の活躍を紹介する「羽ばたき」を4月に発行。PTA広報誌「海涛」の制作では広報委員にご尽力いただいた。	・教員の指導力向上を目標に、授業見学及びICTを利用した教員対象アクティブラーナーを積極的に取り入れ、定期的な教員研修を実施することで、教員の更なるスキルアップを目指す。 ・総合学習のあり方について、本校では、「現代文明論」の果たす役割が大きい。道徳教育やSDGsなど社会問題と関連付けて考えるなどさらに内容の充実を図る。 ・「シヅクリ」による探究活動を導入して、総合探求の充実を図る。 ・ボランティア活動及び防災教育など、地域に開かれた取り組みを積極的に展開して行く。	
その他	生活習慣プロジュクト実施			